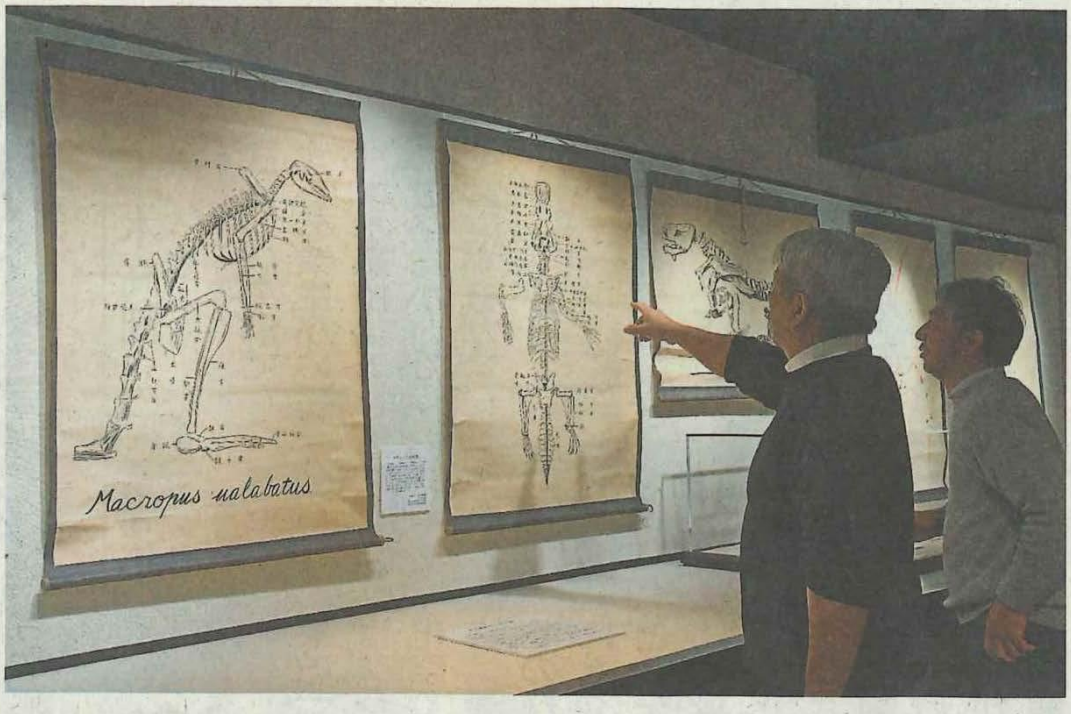
東奥日報　２０２６年（令和８年）１１月６日（金）付　１５面掲載

学び支えた「掛図」公開

弘大資料館で企画展



カンガルーやカモノハシの骨格図などの掛図が並ぶ企画展

弘前

弘前市の弘前大学資料館で、学校現場で使われた教材「教育掛図（かけず）」を集めた企画展が開かれている。戦前から終戦直前までの官立弘前高校（現同大）の学びを支えた動物の骨格図や地図、絵画など19点を公開している。28日まで。

教育掛図は、掛け軸にした動植物の絵図や解剖図などを教室の黒板や壁に掲げて使う教材。子どもたちが一斉に知識を学ぶために明治期以降に広まったとされる。

「教育掛図をよむ―官立弘前高等学校時代の教育と学生の学び―」と題した企画展では、同大付属図書館が所蔵するものを展示。学芸員資格を取得するための授業を受けている同大学生が274点の中から選んだ。

当時の図書館職員が教員の依頼を受けて制作したとされるカンガルーやカモノハシの骨格図、カニの幼生の絵図、南満州鉄道の路線網や満州各地の産業分布を示した「日満関係要圖」、ドイツ語教育に使われた絵画などが並ぶ。

中村剛之館長は「当時の先生たちが、質の高い教育を学生たちにどうやって受けさせようかと考えていた雰囲気を感じとってほしい」と話した。

入場無料で、開館時間は午前10時～午後4時。8日を除き日曜、祝日は休館する。（下山静香）

※この記事は東奥日報社提供です。
この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

［問い合わせ先］
弘前大学資料館　jm3432@hirosaki-u.ac.jp